

# 山びこ通信

7月号  
2005.6.28

## 第3回 ミニミニようちえん



「たなばたかざりをつくろう！」(無料)

7月2日(土) 午前10時～11時

場所 つき組のお部屋

対象 未就園児(年齢は問いません)とご家族

親子で七夕かざりを作ってすごしましょう。おみやげにはササをもってかえてね。

## 第3回 ラテン語のゆうべ



「ラテン語は面白い！」(無料)

7月8日(金) 午後7時～8時30分

講師 山下太郎

場所 第3園舎

対象 ラテン語に関心のある方

## 第15回 青春ライブ授業！



「なんで歴史を学ぶか？」(無料)

7月15日(金) 午後7時～8時30分

講師 某(山の学校講師/京都大学文学部4回生)

場所 第3園舎

対象 中学・高校生・保護者一般

\* 次回「山びこクラブ」(小学生対象)は、9月16日(金)4:00～5:30に予定しています。

# 新しくなりました

「山の学校」の近況をお知らせします。この春から三年目を迎えた「山の学校」ですが、いくつかお伝えしたいニュースがあります。

## 「山の教室」リニューアル

「山の学校」の勉強は、これまで幼稚園の部屋を借りて行ってきましたが、春休み期間中に工事を行い、午後に「山の学校」の教室として利用できる3つの部屋をご用意しました。あわせて保護者や生徒との面談も気軽にできる場所も確保しました。山の学校の電話番号は781-3215（みにいこ）です。

幼稚園の「ひねもす教室」で使っていた空き家を改修したもので、午前中は幼稚園の子どもたちも利用することができます。



「山の学校」は火曜日を例に取りますと、1日の参加者が、のべ30名を超え、3教室とも最終時間まで熱気で溢れています。体験授業や見学に来られる方もちょくちょく訪れていただき、ありがたいことだと思っています。

この建物は幼稚園児から一般社会人まで広く多くの人に愛される「山の教室」として、今後十二分に活用させていただきたく思っています。

なお、改築に要した費用については、2年前のふれあいバザーの収益金（526,407円）を全額充てさせていただき、不足分は「山の学校」の会費より充当いたしました。関係者各位にはこの場を借りて御礼申し上げますとともに、おついでに折に一度ご覧頂けたら幸いに存じます（「山の学校」の活動とは別に、小学校生活全般について、ご相談になりたいことなどがございましたら、いつでも面談のご希望はお受けいたしております）。

## 新しい講師の紹介

四月から着任した新しい先生をお二人ご紹介します。

下村 麻紀子（しもむらまきこ） 同志社大学文学部2回生

前川 裕（まえかわゆたか）

京都大学文学部卒業

同志社大学大学院神学研究科修了

下村麻紀子先生は、小学一年生の「かず」と中学一年生の「英語」を担当いただいています。子どもがとてもお好きな方で、楽しく、明るく授業を進めていただいています。

前川裕先生は、「ラテン語・初級文法」担当です。お仕事のかたわら、週一回の授業を担当して頂いています。平日のお仕事とともに、週末には教会の牧師さんとしてのお務めも精力的にこなされています。前川先生の多岐にわたる研究や趣味の活動は書き出せばきりがなくなるほどですが、とくに「合唱」の腕前はプロ級で、参加なさっている合唱団は毎年コンクールで金賞、世界をまたにかけて演奏旅行に行かれます。

お二人とも大変明るく気さくな人柄で、情熱を持って教えてくださいますので、スタッフ一同さらにチームワークをよくし、「山の学校」の教育に力を入れていきたいと決意しているところです。下村先生（本文3ページ）、前川先生（同7ページ）による文章も、あわせてぜひご覧ください。（山下 太郎）

# 「かず初級」「中1・英語の基本」

担当 下村麻紀子

はじめまして。小学1年生の「かず」、中学1年生の「英語」を担当している下村麻紀子と申します。

私は今大学で福祉を学んでいます。今、福祉の現場では体制にこだわらずに個々のニーズに応えていくことが必要とされています。制度は多くの人々に対していかに効率よく応えていくかのものです。しかし、このような考え方では福祉の目的を実現させることはできません。人は1つの共通のニードを持っていても1人1人が違う存在なのです。現場を生きる人にとっては当たり前のことですが、制度で個々に応えるにはやはり限界があります。これは福祉だけではなく「学ぶこと」にも共通している部分が多く、今どのように学んでいくかは将来大きな違いになると思います。

私が担当している小学1年生、中学1年生は初めて会ったとき彼らもまだ新しい環境に入り込んだばかりでした。新しい学校、新しい教科書、新しい友達...。「新しい」すべてのことに対して大きな期待と不安を持っています。私の好きな言葉である「好きこそものの上手なれ」にあるように勉強でもスポーツでも遊びでも「好き」という気持ちは何事に対しても有効であるように思います。「好き」だと感じるには「興味」があればいいと思います。「どうしてだろう...?」この一つの思いだけで道はいくつにも無限大に広がっていきます。広げていくのは子ども達自身で、一人一人感じ方も道の広げ方も進んでいく道もまったく違います。

3月の時点で山下太郎先生とどのように授業を進めていくべきかお話をさせていただいた際、やはり英語に関しては「聞く」と「覚える」ということが重要だと確認しました。中学1年の英語は教えられたことを覚えることが先につなげる一番の方法だと思います。

覚えるには耳で感じ、手で書くことが大切です。いくら目で見えていても実際に手を動かさなければならぬということはどの教科にも共通しています。耳で聞いたものを手で書いてつづりを確認し、覚える。わからないことは調べる。山下先生から事前に同じ事を教えていただいていた子どももいて、導入はすごくやりやすかったように感じました。さらに疑問に感じた単語は子ども同士誰が一番早い競争しながら調べるといった好奇心にすごく期待を感じました。

それは小学1年生にも言えることで、もう帰る時間になっているにもかかわらず「ここまでやる!」と言ってやりきるといった子ども達の姿勢に私も応えていかなければ、と強く感じさせられました。新しいことを迷いながらも進んでいく子ども達に好奇心から「好き」と感じ、将来彼ら自身で道を広げていくサポートがしたいと思っています。

(下村 麻紀子)



この春にリニューアルした山の学校の建物(通称旧ひねもす小屋)は山小屋風で、元の古い家屋のつくりを生かした3教室ができました。「しぜんクラス」は、その真ん中の8畳の間<部屋上部に欄間があり、隅には違棚、床の間がある和風の風情>で集っています。

6月14日、この日はとても楽しく何となく不思議な日でした。三々五々と山の学校へ到着する子どもたちを教室に座り待っていたところ、一定の間隔をおいて見事に一人ずつ順番に、そしてどの子どもが手に自然のプレゼント(収穫物!)を持って意気揚々と教室に入ってくるのでした。時間になり、それを一つずつ披露し合いました。

『柿の小さな実』『カモジグサ』『陸貝(陸に生息する貝類でカタツムリの仲間)』『ムラサキカタバミ』『小さな小さな白い花』など…。そして、お家から『虫めがね』や『昆虫図鑑』を持参してきた子もいて、スタートからいつもの賑やかな雰囲気となりました。

鴨川で見つけて大切に飼っている幼虫(ヤゴ)と、羽化後の成虫(カワトンボ?かと思われる)を抜け殻とともに運んでくれた子もいました。順番に、虫めがねで小さな陸貝を観察し、傍ら図鑑でヤゴについて調べてみるなど、全ての準備物の分担を皆んなで予め決めていたかのようなのでした。“ムラサキカタバミ”は、空き地や道ばたに咲く雑草の種類に入れられる植物ですが、私の幼稚園の時に一番好きな花でした。スクラップノートも作ってきてくれたので是非披露したいところでしたが、次に延期させてもらいました。急いで出かける準備をしなければなりません。「さあ、グループ2つに分かれて出発です。」

## 京大理学研究科植物園へ

お山を下り、住宅地の植え込みに咲くクチナシの香りを感じながら御陰通りを西へ、京大グランド外周を歩き、理学部植物園玄関に到着。中に入ると、お花のいっぱい咲いている植物園ではなく、高い木で森が構成され、その下は自然の植生に近い植物がたくさん茂り、幼稚園のお山とはまた違った木や草があって、学名で書かれたプレート表示から大切に研究されている様子が伝わる園内でした。畑一面、蓮か芋の葉に似た大きな丸い葉をした植物が植えられていたり、中でも子どもたちの目をひいたのは、その横の大きな『バナナ』の木(幼稚園にもある)にぶら下がるように咲いている大きな珍しい花でした。脇には小さなバナナの実ができていました。



二人ずつ手をつないで、御陰通りを西へ



植物園に到着



バナナの花

また、5月下旬から6月にかけて1週間だけ小さな花をたくさん咲かせ、まるで、枝や葉っぱに雪が白く降り積もるように見える姿から「雪の木」とも呼ばれる『ユクノキ』の大木(6月8日の京都新聞で掲載/落葉高木マメ科フジキ属)も見られました。

今年は6、7年に一度の満開になったそうですが、残念ながらその時期は過ぎていました。「見られなくて残念ね。」と言うやいなや、「先生、はいっ」とある子がタイミングよく差し出してくれたのが、何とユクノキの花びらでした。それは、ご家族で満開の時に見学に行かれた時に拾ったユクノキの花びらで、大切にビニールに包みカバンに持っていたものでした。花びらを手に、高さ10メートルを超えるユクノキが、一面の白い雪に覆われた姿を想像しながら皆んなでその大木のとっぺんを見つめました。



畑一面に広がる作物



開花したあとの花が残るユクノキ



こんなところからキノコが

貯水池には、大きなオタマジャクシが溢れるほどに泳いでいて、ザリガニも住んでいるようでした。畑の奥には川があり、葦も生えていて、すぐ横にはヤゴの抜け殻が2つくっついており、いち早く見つけた子が教えてくれました。木の切り口からはキノコも生えていました。アリの穴が長く横に伸びて巣作りしている様子を見たり、クロオオアリ、バッタ、大きな鳥の羽根、水生植物など、それぞれに興味のある場所を暫く観察しました。



きっと何かいるような川



ヤゴの抜け殻見つけた！



モリアオガエルの卵

そして、あっという間に戻る時間がやってきました。玄関に向かう途中でも、何やら不思議なものを見つけ皆が集まっていました。細長く伸びた葉が、一枚だけリズムカルに左右に揺れているのです。なぜ？風もなく辺りの枝や葉も止まったままで静かなのに・・・風の流れは不思議です。

帰路につく途中、空き地のセイタカアワダチソウにアブラムシが密に集まっており、そこには案の定テントウムシが数匹いたり、またサナギも見られました。子どもたちの見つける目の鋭さ、速さにはいつも驚かされます。そして、何かを見つけて表現する以上の遙か多くのことを、見て、考えて、気づいて、試していることが窺われますし、大人が感ずるより何倍も敏感に出会った経験や風景を心にしっかり刻んでいるのです。行き帰りの道中、そしてお山に戻ってくるまで、子どもたちの自然に向けるの興味はどこまでも生き生きと溢れていました。  
(山下 育子)



フェンスの向こうも気になります



テントウムシ、指をたてたら飛んでいったね



帰りは自転車気をつけてね

## 夏のワクワクしぜん教室のお知らせ

過去2年間、山の学校では夏休みに「ワクワクしぜん教室」を実施しました。平成15年度は瓜生山山頂～狸谷不動尊經由白川通り、平成16年度は比叡平～大文字三角点經由銀閣寺へと参りましたが、今年の夏は下記日程により、一泊二日で緑深い花背へ夏期合宿に行きます。

日 程 平成17年8月25日(木)、26日(金)

行き先 花背『山村都市 交流の森』/ 花背山の家より、もう少し奥へ行ったところです。

内 容 木工に挑戦 (森の工房「もくじゅ」にて) \*水中めがねをつくらう！\*  
川あそび (交流の森を流れる上桂川:穏やかな流れの浅瀬です)  
星空観察  
森の散策  
昆虫採集 ほか

詳細とお申込みにつきましては、後日、山の学校会員ご家庭宛にご連絡いたします。



# 『小学2年生・ことば』

担当 宇梶 卓

先日の授業では、宮沢賢治の『どんぐりと山猫』という絵本をみんなで読みました。最初にじゃんけんをして順番を決め、一人一人声を出してゆっくり音読していきます。「本を読むのが苦手」というKくんも、ここ二ヶ月でめきめきと力をつけてきました。とりわけ句読点に注意し、文を一つ一つ区切りながら読むことができるようになったのは、Kくんの進歩だと思います。また、音読が得意で本を読むのが好きなAくんの存在がKくんに良い影響を与えていて、おそらくKくんはAくんの読み方から音読について学んでいる（「真似ぶ」という意味での「学ぶ」）ようにも思われます。

少し前まで、音読がちょっとしたブームになっていた感があります。『声に出して読みたい日本語』という本が流行したり、音読が脳に良い刺激を与えるという説が唱えられたりと、音読というきわめて基礎的な行為に改めて焦点が当てられていました。その当否は差しおいても、確かに音読というのは、私の印象から言えば、大変重要なものです。私たちは成長して大人になるにつれ、音読をしなくなり、黙読によって文章を読むようになりませんが、実際には黙読それ自体が音読の経験に多くを負い、そして支えられているのではないのでしょうか。作家の谷崎潤一郎はその著『文章読本』（中公文庫）の中で、こんなことを述べています。

「現代の口語文に最も欠けているものは、眼よりも耳に訴える効果、即ち音調の美であります。今日の人には「読む」と云えば普通「黙読する」意味に解し、また実際に声を出して読む習慣がすたれかけて来ましたので、自然文章の音楽的要素が閑却されるようになったのでありましょうが、これは文章道のために甚だ嘆かましいことでもあります。...たとい音読の習慣がすたれかけた今日においても、全然声と云うものを想像しないで読むことは出来ない。人々は心の中で声を出し、そうしてその声を心の耳に聴きながら読む。黙読とは云うものの、結局は音読しているのである」。

谷崎の指摘する通り、私たちは文章を黙読するにしても心の中で読んでいる声を響かせています。文章の意味を理解するというのは、畢竟いかに文字の中にこのような声を読み取るかにかかっているともしえます。そのためにも、音読の経験の積み重ねこそが、黙読を含めた文章読解の一番の基本になると思われるのです。私自身、今でも一読してよく分からない文章にぶつかると、丁寧に音読することで意味をつかんでいくようにしています。

しかし、子どもの中には学校の授業でも音読を嫌がり、小声でぼそぼそと読む子がいます。これはとても残念なことで、実際には何も恥ずかしがる必要はないのです。「ことば」の授業では、何ら恥じることなくみんなで楽しく絵本を読んでいます。最初は読み間違え、つかえることもあります。しかし、学ぶために重要なことは、そういう間違いを怖れないことです。物怖じしないからこそ、いっそうの向上を目指せのではないのでしょうか。Kくんの上達はまさに、このことを示していると思うのです。  
(宇梶 卓)

# 『ラテン語・初級入門』

担当 前川 裕

## 勉強？研究？...「学ぶこと」によせて

「勉強、好きなんだねえ」 誰かにこう言われた時、どう思うでしょうか。私は「変な奴だなあ」という言外の圧力を感じます。つまり、「勉強」とは学校で強制されるもの、分からなくて嫌なもの、時間がかかって苦しいものであり、そんなものが好きなんて変わった奴だなあ、...という憐れみのような感触です。

そんなとき、「ボクは『研究』が好きなんだよ」と返します。「研究」という言葉には、「強制」という響きがありません。時間がかかっても、苦しいものではありません。むしろ、喜びに溢れたひとときです。「研究」という言葉を使うと大仰な感じですが、自分から好んで学ぶものはみな「研究」である、といってもよいでしょう。

しかし、小学校から大学に至るまで、基本はやはり「勉強＝教えられること」だと思います。それは、その時は当人に価値が分からないものであっても、将来に開花するための貴重な布石だからです。好きな物ばかり食べていたら栄養が偏るように、好きなことのみを学んでいてもやはり知識のバランスが偏ります。身体が様々な栄養素によってバランスを保つように、知識もまたさまざまな要素によって組み合わせられているからです。A という事象は、通常 a が原因と考えられるが、実は b によっても、また c によっても説明できるのだ そのような多様性に気づくことは、人間としての「生きる力」を付けるために不可欠ではないでしょうか。

私は「学ぶこと」が大好きです。いろんなことに手を出してきましたし、今でも手を出し続けています。そんな私には大書店や図書館は宝の山です。自分の専門分野の棚はもちろんですが、全然違う分野の本棚を眺めて歩き、時に目についたものを手に取ってみる。もちろん、分からないところだらけです。でも「何か新しいことに触れた」という喜びの記憶は、いつまでも残ります。それは決して無駄なことをしている時間ではありません。むしろ、それこそが「学び」の本質なのだと思います。

「山の学校」も、そのような「学ぶこと」の喜びを分かち合う場として成長していきます。ここから大樹のように「学び」が広がっていくことを願って。

\* \* \*

この春学期から「山の学校」の講師（ラテン語入門）をさせていただきます。山下先生とは、私が同志社大学大学院の学生だった十年ほど前からのお付き合いで、今もラテン語の師としてご指導頂いています。

平日はサラリーマン、週末はキリスト教会（プロテスタント）の副牧師として働いています。詳しくは「山の学校 Weblog」<sup>\*1)</sup>にあるリンクからどうぞ！

（前川 裕）

\*1) 「山の学校 Weblog」 <http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>

「しぜん」のクラス (隔週・1時間30分授業・3:50~5:20)

火曜日	9月		13		27	~~~~~クラス名~~~~~
	10月		11		25	
	11月		8		22	

小学生 しぜん低学年(小1・2)  
しぜん高学年(小3~6)

他クラス...ことば・かず・中学生以上のクラス (小学生60分・中学生80分・高校生80分授業)

\* 未開講クラス...『高校・英語の読み書き』『中2・数の基本』『かず上級』(小5~6)『ことば中学年』(小3~4)の開講につきましては、一度ご相談ください。

火曜日クラス	1週	2週	3週	4週	5週	~~~~~クラス名~~~~~
9月	6	13	20	27		小学生 ことば低学年(小1) ことば低学年(小2) ことば高学年(小5・6)
10月	4	11	18	25		中学生 日本語の読み書き(中1~3) 英語の基本(中2) 数の基本(中1)
11月	1	8	15	22		高校生 日本語の読み書き(高1~3) 数の世界(高1~3)

水曜日クラス	1週	2週	3週	4週	5週	~~~~~クラス名~~~~~
9月	7	14	21	28		小学生 ことば中学年(小3・4) かず初級(小1・2の内容)
10月	5	12	19	26		中学生 英語の基本(中1) 高校生 英語の基礎(高1~3)
11月	2	9	16		30	高校・一般 ラテン語講読A

木曜日クラス	1週	2週	3週	4週	5週	~~~~~クラス名~~~~~
9月	1	8	15	22	29	小学生 かず中級(小3・4の内容)
10月	6	13	20	27		中学生 英語の基本(中3) 数の基本(中3)
11月		10	17	24		高校・一般 数と自然(高1~3) ラテン語初級入門

金曜日クラス	1週	2週	3週	4週	5週	~~~~~クラス名~~~~~
9月	2	9	16		30	高校・一般 ラテン語講読B
10月	7	14	21	28		
11月	4	11	18	25		

授業料

- 山の学校は学期制で、各学期の授業は12回です。
- 秋学期の会費につきましては、7月15日までに納め下さいますようお願いいたします。
- 会費を分割(全額の1/4ずつ)でお納めになる場合は、秋学期に関しましては、分割の初回分を7月15日までに納め下さい。残り3回分は、9月、10月、11月の月初めの授業日にお納め下さい。

入会金

小学生	6000
中学生	8000
高校・一般	10000

秋学期全額

受講数(一人)	小学生	中学生	高校・一般
1科目	24000	32000	40000
2科目	40000	56000	72000
3科目	48000	72000	96000

分割(お月謝とは異なります)

受講数(一人)	小学生	中学生	高校・一般
1科目	6000	8000	10000
2科目	10000	14000	18000
3科目	12000	18000	24000

お振込先

恐れ入りますが、振込み手数料はご負担下さい。



平成17年度の時間割（秋学期・予定）

（各クラス5名まで）

	4:10-5:10	5:30-6:30	6:40-8:00	8:10-9:30
火	しぜん (低学年&高学年)	ことば低学年1年 ことば低学年2年 ことば高学年	中1・数の基本 中2・英語の基本 高校・日本語の読み書き	中学・日本語の読み書き 高校・英語の読み書き 高校・数の世界
水		かず初級	中1・英語の基本 高校・英語の基礎	ラテン語講読 A
木	かず中級		中3・英語の基本 高校・数と自然	中3・数の基本 ラテン語初級入門
金	やまびこクラブ 4:00~5:30 (年6回)		青春ライブ授業! 7:00~8:30 (年6回)	ラテン語講読 B

小学生の部

『ことば』	低学年(1年)	山下太郎
	低学年(2年)	宇梶卓
『しぜん』	中学年(3・4年)	某
	高学年(5・6年)	山下育子・山下太郎
『かず』	低学年(1・2年)	山下育子・山下太郎
	高学年(3~6年)	下村麻紀子
	初級(1・2年内容)	福西亮馬
	中級(3・4年内容)	
	上級(5・6年内容)	

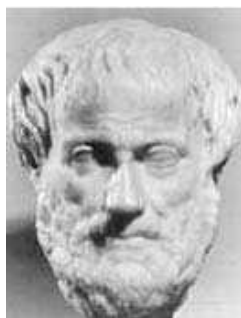
中学生の部

『日本語の読み書き』	中1~3	某
	中1	下村麻紀子
『英語の基本』	中2	Fujita
	中3	山下太郎
『数の基本』	中1	宇梶卓
	中2	
	中3	下村昭彦

高校生・一般の部

『日本語の読み書き』	高1~3	某
『英語の読み書き』	高1~3	Fujita
『英語の基礎』	高1~3	山下太郎
『数と自然』	高1~3	下村昭彦
『数の世界』	高1~3	福西亮馬
『ラテン語入門』	高~一般	前川裕
『ラテン語 講読 AB』	高~一般	山下太郎

講師が「 」のクラスは、希望者を5名まで受け付けます。希望者が2名以上集まった時点から、上記の講師陣により授業が開始されます。



# 日本語の読み書き

中学生 火曜日 pm 8 : 10 ~ 9 : 30

高校生 火曜日 pm 6 : 40 ~ 8 : 00

中学生：アリストテレス（戸塚七郎訳）『弁論術』岩波文庫

高校生：三木清『人生論ノート』新潮文庫

現在使っているテキストは上の通りです。毎授業、テキストを少しずつ読破しながら、それに基づいた作文、小論文、討論を行っています。こうした「考えることを文章によって表現する」練習が、論理的思考力の鍛錬になることは言うまでもありません。「国語なんて」と、その必要性をあまりピンと感じたことがなかった人ならば勿論、根っからの国語好きでも、どうして好きなのか、やはりピンと来ないといった中学生・高校生も、ぜひここへ来て一緒に、本物の国語を味わって下さい。今も、そして将来も必要不可欠となる「生きる力」を磨きましょう。見学は随時受けています。まずはお気軽にお越し下さい。

高校生必見！

## 英語基礎学力診断テスト

英語の基礎学力診断テストを8月24日(水)に下記の要領で行います。試験は中学校で学ぶ大切なポイントをもれなくチェックするものです。試験終了後、個別に学習指導を行い、今後の英語の実力向上に必要な心構えや具体的な教材の選び方などについて、アドバイスします。参加者は先着5名、学年不問といたします。参加ご希望の方は電話でその旨ご連絡下さい。

### 記

日時 8月24日(水)午前10時～12時  
申込 7月15日(金)締切  
場所 「山の学校」教室(電話:781-3215) 幼稚園のすぐ下にあります。  
費用 2,000円  
内容 (1)30分で英語の基本の確認テストを行います。  
(2)続いて自習用の特製問題集に取り組んでいただきます。  
(3)この問題集は9月から始まる基礎クラスのテキストになります。  
(4)採点の結果に基づき、実力診断と今後のアドバイスを個別に行います。  
講師 山下太郎  
特典 山の学校・非会員の受験者で、「英語の基礎」(下記詳細)に入会される場合、入会金を免除いたします。

高校生に、英語を1から教えたい！

# 英語の基礎

水曜日 pm6:40～8:00(9月スタート！)

内容 高校での英語学習にも留意しつつ、実力向上の切り札となる、中学英語の徹底的な復習を行う

講師 山下太郎

英語は基本が大事です。人によって「基本」の定義はまちまちですが、本当の英語の基本とは、中学校で習う英文法を意味します。

具体的に言いますと、中学校で習う例文(全部で200程度)については、どれも「瞬間的に」英語が口をついて出てこないという意味はありません。また、そのどれもが正確に英語で書けるまで練習する必要があります。これは、ちょうどかけ算の九九のようなもので、うる覚えではまったく意味がありません。「に・さんが8！」と言っている状態で、どうして数学の問題が解けるのでしょうか？

ところが、実際に高校生や大学生に高校入試の英語の問題でテストをしてみると、中学レベルの知識が実にあいまいで、文法はおろか、綴りも発音も「我流」の人が大半です。そして、例外なしに「英語は苦手」と口にしていきます。やる気があっても、勉強の順序を間違えると、せっかくのやる気も空回りに終わります。

私は予備校で八年、大学で一二年英語を教えてきましたが、この手の悲喜劇を嫌と言うほど見てきました。しかし一方で、中学英語を一から勉強し直すことによって、彼らのどれだけ多くが生き生きと勉強に取り組み、どれだけ大きく自信を蘇らせるかも！





